

第六十四師団病馬廠略歴

年月日	概	要
昭二八 七、一	軍令陸甲第三十六号に依り第六十四師団病馬廠編成下令	
七、一	編成業務着手	
七、一〇	湖北省当陽県当陽第三十九師団病馬廠に於て編成完結	
七、一〇	第六十四師団警備地（中华民国江蘇省江都県揚州）に前建のため当陽県当陽出發	
七、一〇	江蘇省江都県揚州到着	
一、五、二四	京漢作戦参加のため江蘇省江都県揚州出發	
自至 五、一八 六、三〇	京漢作戦参加	
自至 六、三〇 八、一八	第一期湘桂作戦参加	
〇、八、一八	復員下令	
二、五、九	内地帰還のため岳州出發	
六、七	上海到着	
六、二〇	上海出發	
七、一五	佐世保上陸	
七、一五	復員式終了	

外 三十二

(386)

0896

第六十八師団司令部略歴

陸軍中將

堀

三樹男

年月日	概要	要
昭和四一〇	中華民國河西省九江縣九江に於て軍令陸甲第八号に依り第六十八師団司令部編成下令	
四一〇	編成業務着手	
四三〇	編成完結	
編成表附表第一の如し		
師団長 陸軍中將 中山 惇		
参謀長 陸軍少將 山本 嘉		
大別山作戰に参加		
死傷 なし		
参謀長 陸軍中佐 原 田 貞三郎		
師団長 陸軍中將 佐久間 爲 人		
内地帰還人員		
将校ニ 下士官三 共七		
常徳殲滅作戦に参加		
昭和四一〇		

(337)

0897

年月日	概	要
昭元四年 八月二	<p>1 戦死 なし</p> <p>2 戦傷 下士官一 兵三</p> <p>湘桂作戦第一期に参加</p>	<p>中華民國武昌泉紙坊に移駐</p>
自 八五 八二	<p>1 戦死 下士官 兵三</p> <p>2 戦傷 將校四 下士官三 兵五</p>	<p>師団長 陸軍中將 堤 三樹男</p> <p>参謀長 陸軍中佐 小 合 茂</p> <p>中華民國湖南省衡陽泉衡陽に移駐</p>
八九	<p>補充人員</p> <p>下士官二 兵一〇 軍属七</p>	
九 〇 三	<p>全泉常寧桂柳作戦に参加</p> <p>1 戦死 下士官一 兵一</p> <p>2 戦傷 將校一 下士官一 兵三</p>	
一〇 二 八	<p>1 戦死 兵三</p> <p>2 戦傷 下士官一 兵三</p> <p>湘西作戦に参加</p>	
大 三 一 〇		

三十三

四二〇	補充人員	/ 戦死 下士官二 兵三
八一五	將校三 下士官五 兵二五	2 戦傷 將校一 下士官二 兵六
九二二	終戦に伴ひ停戦	
四一五	中国陸軍第七十四軍に投降	
四一三	中華民國湖南省衡陽県衡陽出發	
四一四	中華民國湖南省株洲県株洲集結	
四二五	復員帰還の爲に中華民國湖南省株洲県株洲出發	
六二六	中華民國江蘇省上海出帆	
六二七	佐世保上陸	

第六十八師団司令部(一部)略歴

陸軍薬剤大尉

東

幸三郎

年月日	概要
五、二四	上海第二兵站宿舍に於て第六十八師団司令部東隊縮成式を実施す 縮成人員左の如し 將校四、准士官五、下士官二六、兵五八、軍属七、計一〇〇名 本日より乗船地司令部に日報を提出す
五、一五	回歸熱患者(上等兵、森田秀夫)発生せるため向ふ一週向隔離となる 被具並に寝具等の蒸気消毒を実施す
五、一六	回歸熱患者発生せるため兵站の指示に依り朝食後幕舎に移動す 森田上等兵(回歸熱)を上海第一五九兵站病院に入院せしむ 総員九九名
五、一九	九〇〇より第一兵站本部横広場に於て第一回検疫を実施せらる 上等兵植田勇急性情管支炎の爲上海第一五九兵站病院に入院せしむ 上海支所派遣軍合同連所に於て復員関係書類の検査を受く 総員九八名
五、二二	九〇〇より前日に準じ第二回検疫を受く 乗船並に携行品検査受検のため上海市政府前に前進宿舎(幕舎)す

五 三三	○五〇〇幕舎を撤収返納レ〇六三〇市政府前広場に到り携行品検査を受けたる 袋柄包は「ト」ラックレ入頁は行軍を以て飯田枝橋より特別輸送艦隊が一五〇号レ 乗船一八〇〇上海出帆し呉淞沖に仮泊す
五 三四	特別輸送艦海勇一五〇号輸送指揮官は勇一三三師団歩兵第九八旅団司令部陸軍 大尉 武 安 勇
五 三五	○七、〇〇呉淞出帆 一八〇〇頃航行中止仮泊す
五 三六	○五〇〇抜錨航行す 鹿兒島港に入港し検疫を受く 鹿兒島上陸地支局派遣該艦乗船組の連絡員より復員業務に關し若干の指揮を受 く
五 三七	発疹チフスの予防接種並に種痘を実施す
五 三八	「コレラ」の予防接種を実施す
五 三九	本日上陸予定の欠検疫の結果同乗中の他部隊より発疹チフス患者一名あり乗船 のまま二週間隔離となる日没後各個人並に船室の消毒実施せらる
五 四〇	日朝点呼時多田軍医少尉をして衛生講話を実施せしむ
六 一	乗船者名簿の様式改正せられたるため再複製す
六 一〇	昨九日を以て隔離を解かれ一三〇〇より上陸開始レ検疫並に消毒を実施せらる 検疫を終了後鹿兒島上陸地支局に到り復員関係書類の点検並に指導を受く 部隊は高島屋に宿泊し給与を受く

年月日	概要
六一二	<p>引揚証明書を交付せらる</p> <p>技手田村重郎胸部疾患疑にて上陸時鹿児島市鴨池病院に入院せしむ 総員九七名</p> <p>被服(各人靴下)足証)受領交付し、日本円交換(枝飯金)帰郷旅費、帰郷糧 秣、乗車券等を交付す</p> <p>三〇〇より高島屋屋上に於て特別輸送艦第一五〇号に便乗せる部隊の復員式挙 行せられ之が終了後当該復員式を行ひ復員時に於ける任官進級並に諸証書(証 明書)附与命令の伝達をなし各証書(証明書)を附与す</p> <p>復員時総員九七名</p> <p>復員式終了後復員関係書類の検査を受く</p> <p>復員式終了後鹿児島市出身者を帰郷せしむ</p> <p>一八〇の高島屋を出発鹿児島駅に到り三三〇の発の復員列車に依り帰郷せしむ</p> <p>残務整理者(東葉制大尉、遠藤准尉、北川軍曹は二日市駅にて下車復員本部に 出頭し残務整理に關し係員に指導を受け指定旅館に於て事務を整理す</p> <p>〇八三〇再び復員本部に出頭し復員本部長に申告し復員関係書類の検査を終り 列車に依り夫々帰郷す</p>
六一三	

三
四

第六十八師団司令部の一部略歴

陸軍大尉 永井 藤三郎

昭和二十一年五月三十一日上海に於て六八師上復作命第三号(統上海命甲第八号)に拠り司令部主力より分離行動す

昭和二十一年六月一日上海に於て六八師上復作命第三号に拠り岡村中尉以下一八四名(重慶遠送俘虜)耐添者永井大尉以下一三名(司令部員)計一九七名を以て一ヶ大尉一ヶ中隊の編成を完結す

入院者 六月四日 陸軍兵長河城寺徳雄以下五名 第一八三兵站病院

六月五日 陸軍軍曹大武利雄以下八名 第一八一兵站病院

六月二日 陸軍一尋兵下野和雄以下四名 第一八一兵站病院

以上何れも病名未定

内地帰還者一八〇名 入院者一七名

総員一九七名(含ム日橋三名)

昭和二十一年六月十二日 上海に於て海防艦D 205号に乘艦

同 六月十四日 上海出港

同 六月十六日 鹿児島入港

同 六月十九日 鹿児島上陸

同 六月十九日 全員召集解除帰郷

第六十八師団滯留部隊

黃岡滯留隊は終戦後師団各大隊の武漢地区後退に先立ち各隊の弱兵を武漢地区に後送すると共に後方勤務者をも併せ掌握し主力の行動を容易ならしむる為昭二十九年九月五日武昌舊大東亜寮内に第六十八師団連絡所を開設し集成せる部隊として同年十一月二十四日中国側の命に依り湖北省黃岡に移動約五ヶ月間同地に滯留中のところ四月二十一日統率團よりの当滯留隊は上海に於て本隊に合流復員のため上海に先送すべしとの命令に接し二十四日黃岡出発五月四日上海に到着を待たせり

然るに五月七日不計も主力の各部隊副官及残務整理員の到着を見引続き各部隊主力上海に到着し来れり茲に於て滯留隊は其の掌握者を夫々原隊に復帰せしむべく師団本謀に指示を仰ぎたるところ滯留隊は患者弱兵多きを以て速かに単独復員すべしとの命令を受領せり依て昭和二十九年五月五日主力と分離後生じたる事故者一死没者一入院患者一転傷者及逃亡者等の状況を報告すると共に各関係書類は之を一切所屬部隊に引継ぎ復員したるものなり尚滯留部隊の掌握者各大隊別人員一復員者一左の通りなり

残務整理者 陸軍中尉 福崎 峰太郎
 陸軍軍曹 南 定 彦

第六十八師団司令部（遺骨護送隊）の一部略歴

月日	主 要 事 項	摘 要
大五	<p>1. 遺骨護送隊として浮田中尉以下一六六名上海に於て乗船を準備す</p> <p>2. 乗船直前埠頭に於て左記五名を残置す</p> <p>左 記</p> <p>(イ) 入院予定者として四名（主として発熱）</p> <p>上等兵 荻野 実</p> <p>同 小 世 九一郎</p> <p>同 松 島 操</p> <p>同 三 村 定 雄</p> <p>(ロ) 前記患者附添として一名</p> <p>衛生兵長 庄 司 貞次郎</p> <p>3. 一八〇〇左記の通り乗船出帆せり</p> <p>左 記</p> <p>人員浮田中尉以下 一六一名</p> <p>遺 骨 三七八八柱</p> <p>遺 品 九四〇冊</p>	<p>大橋准尉は20名に 転属のまま当護 送隊と行動を共にす</p>

(376)

0905

月日	主 要 事 項	摘 要
六 二二	<p>船名(海防艦 勇七九号)</p> <p>一八〇〇全員鹿児島に上陸す</p> <p>左の通り鹿児島上陸支局に申継を完了せり</p> <p>記</p> <p>遺骨 三七八八柱</p> <p>遺留品 八六三冊</p> <p>(但し八一ニ名分とす)</p> <p>2 金着交付、進級、各種証明書及証書等の交付を完了</p> <p>復員式を完了召集解除 除隊 予備隊編入となる午後全員帰郷の途に就かしむ</p> <p>3 各種証明書 召集解除等の月日は六月十一日となせり</p> <p>(支局の指示による)</p> <p>1 浮田中尉は二日市(復員本部)に向う</p> <p>2 浮田中尉二日市に到着</p> <p>1 遺骨名簿中死亡年月日及同場所不明のもの約百三、三十名あり</p> <p>2 右に關し鹿児島支局より左の事項を要求せらる。</p>	<p>六橋中尉は上陸と同時に恩給の爲入院者 参考</p> <p>未整理(送付先)</p> <p>遺留品七一冊申継をなす</p> <p>浮田中尉は残務整理として残る</p> <p>浮田中尉の召集解除日は二日市に到着日(六月十日)なり(復員本部の指示による)</p>
未整理事項 その他		

内 三十五

(346)

0906

(以下の事項は
後日復員する
第七師團復員
掛関係者には
処理せらる)

死亡年月日及場所を調査し複製

様式は遺骨名簿の本人の欄全部を設け所要事項を全部記入す

3 右四部中

一部は本籍地方世話部に送付

二部は鹿児島陸地支局留守業務課遺骨、遺留品部に送付

一部は保管中の遺骨名簿(復員本部に提出用)の補修の便に供す

4 遺留品中送付先不明の貯金通帳七十冊を遺留品目(送付先不明

の分)四部と共に残置す(預託掛に預託しあり)

5 生存者の思給関係書類は師団司令部(復員部)森 中尉の指示

により一括梱包残置す(預託掛に預託あり)

6 戦時名簿には功績等級席別等の不記入戦時名簿及除隊召集解除

者名簿は各一部地方世話部に復員本部より送付せらる

7 入院患者四名同附添一名復員書類(除隊時名簿)を残置す(預託

掛預託しあり)

8 師団司令部へ報告書類として左記を残置す

記

(4) 山本軍属解雇名簿

残置とある二部の遺骨名簿は補習後復員本部に提出するものとす(預託掛に預託しあり)

戦時名簿は本人に携行せしめたり

月 日	主 要 事 項	摘 要
	<p>(D) 思給連名送</p> <p>(ハ) 除隊召集解除者連名送</p> <p>(ニ) 残留者名送</p> <p>(ホ) 情報名送</p> <p>前記書類は預托撤に預托あり</p> <p>？ 遺留品名送ニ部預托撤に預托あり</p> <p>一部は遺骨名送補習完了後共に復本に提出せることとす</p> <p>他の一部は68D控用なり</p> <p>10 遺骨関係書類を預托撤に預托したリ</p> <p>其他若干書類を預托す</p> <p>以 上</p>	

(398)

0908

第六十八師団歩兵第五十七旅団司令部略歴

年月日	概	要
昭二七、四、一〇	編成下令	軍令陸甲第八号（独立混成第十四旅団復員並第六十八師団編成下令せられ其の業務に着手す
四二〇	編成完結	第六十八師団の編成完結し旧独立混成第十四旅団の作戦警備地域及大治地区の任務を継承す
六二〇	浙贛作戦	歩兵第五十七旅団は旧独立混成第十四旅団の任務を継承し九江德安葛溪武穴の要点に位置し長江並に南潯鉄道の確保に任ず
九一	独立歩兵第六十四大隊は主力を以て第三師団に配属黄汲地区警備に任ず	隸下各大隊は従来の位置とす
一八三三一	江北作戦	
四六	江南作戦	
五二八	常德作戦	
元五二二	湘桂作戦	

(397)

0909

年月日	概要	要
昭二九一三、八	南部興漢打通作戦	
二〇六一	安平河内地方地区の討伐	
八、一八	復員下令	
二、四、四	内地帰還のため出発	1. 四月四日茶山均出発
六、二	上海に於ける諸業務了し来船す	2. 四月五日岳州衆船出発
六、二	鹿児島に上陸	3. 五月八日上海乗船

(420)

0910

第六十八師団独立歩兵第六十一大隊略歴

年月日	概	要
昭七、四、一〇	單令陸甲第八号に依り第六十八師団独立歩兵第六十一大隊編成下令	
四、一〇	第六十八師団独立歩兵第六十一大隊臨時編成完結	
至自 四、一〇 四、一七	編成地 中華民國湖北省沔陽縣武穴	
一〇、一八	九江武穴地区の警備に任ず	
一八、四、一五	江西省大冶縣大冶に移駐 同地附近の警備	
一九、四、一八	江西省瑞昌縣瑞昌に移駐同地附近の警備	
八、九	武昌縣金水河に到着同地附近警備	
一三、三、六	湖南省衡陽縣道縣附近に移駐同地附近の警備	
二〇、六、二〇	湖南省耒陽縣蔡家河に集結同地附近の警備	
八、一八	湖南省似泉安仁附近の警備	
二、四、五	復員下令	
六、二	復員の爲衡陽出発上海集結	
六、三	上海港出帆	
六、三	鹿兒島上陸	

(401)

0911

第六十八師団独立歩兵第六十二大隊略歴

年月日	概	要
昭一七 四一〇	軍令陸甲第八号に依り第六十八師団独立歩兵第六十二大隊臨時編成完結	
四二〇	第六十八師団独立歩兵第六十二大隊臨時編成完結	
自一八 一四九	大別山作戦に参加	
自一七 一四〇	九江瑞昌武穴地区の警備に任ず	
自一八 一四五	海南地区の警備	
自一九 一四七	湖北省紙坊地区の警備に従事	
自一〇 一四五	湖南省祁陽景洪橋地区の警備討伐に従事	
自一〇 一三五	湘西作戦並に常德地区の警備討伐に従事	
自一〇 一三八	復員下令	
三二 四 四	復員のため衡陽茶山坊出発	
六 五	鹿児島港に到着、検疫の結果同乗せる他部隊に発疹チフス患者発生し船内隔離を命ぜらる	
六 一〇	陸上隔離解除	
六 二二	復員式挙行	

外 三十六

(22)

0912

第六十八師団被立歩兵第六十三大隊略隊

年月日	概	要
昭一七、四一〇	軍令陸甲第八号に依り被立歩兵第六十三大隊編成下令	
四一〇	編成業務着手	
四二〇	編成完結	
五二七	驻地(編成地) 中華民國江西省德安景德安	
三二八	浙贛作戰参加	
八五九	大別山作戰参加	
一九〇五	江南殲滅作戰参加	
一九〇五	衡陽景河田市に移駐	
二〇一九	南部興漢打通作戰参加	
六二二	安仁附近の戰鬥参加	
九二二	停戰協定締結	
二二五〇	上海來結	
六二五	上海出帆	
六二五	山口県仙崎港上陸	
七二〇	復員完結	

(425)

0913

第六十八師團独立歩兵第六十四大隊略歴

年月日	概	要
昭三、四、一〇	軍令陸甲第八号独立歩兵第六十四大隊編成下令	
四、二〇	編成業務着手	
四、二〇	箬溪附近の警備討伐	
四、二〇	箬溪附近の警備討伐	
四、三〇	浙贛作戰參加	
八、三〇	補充人員二八四名箬溪到着	
七、二一	補充人員二八四名箬溪到着	
九、二二	中華民國湖北省麻城縣胡三勝に移駐	
一、一、二五	中華民國湖北省黃陂縣黃陂に移駐	
三、三〇	補充人員三一〇名到着（昭和十七年度徵集退役兵）	
一〇、七	團里少尉以下一一名補充將校到着	
九、四、五	補充下士官一二名到着	
四、一五	中華民國湖北省武昌縣徐家灣に移駐	
五、二	補充人員二二〇名徐家灣到着	
九、二五	中華民國湖南省常寧縣常寧に移駐	
一、三、二	中華民國湖南省耒陽縣耒陽に移駐	
二、〇、一、五	補充將校清水少尉以下七名到着	

(262)

0914

三 一	中華民國湖南省宜章縣白石渡に移駐
六 一	中華民國湖南省安仁縣白藤寺に移駐
八 一八	復員下令
九 一三	中華民國湖南省衡山縣大堡に移駐
三 六 四	上海出帆
六 一〇	鹿児島県鹿児島市上陸

(405)

0915

第六十八師團步兵第五十八旅團司令部略歴

年月日	概	要
昭一七、四一	軍令陸甲第八号步兵第五十八旅團司令部編成下令	
四一〇	編成業務着手	
四三〇	中華民國江西省九江景九江編成完結	
六三三	中華民國湖北省武昌景武昌移駐	
七二六	中華民國湖北省大冶景大冶移駐	
八二〇、八	自八二〇、八常德作戰參加	
八二〇、八	自八二〇、八常德作戰參加	
九八三	自九八三全景作戰參加	
〇八二八	復員下令	
八三〇	中華民國湖南省衡陽景衡陽移駐	
九二二	停戰協定締結	
二四五	中華民國湖南省衡陽景衡陽出發	
六二二	中華民國上海出帆	
六三〇	博多港上陸	
六三〇	復員完結	

外 三十七

(406)

0916

第六十八師団独立歩兵第六十五大隊略歴

年月日	概要	要
昭二四、一、三〇	独立混成第十四旅団編成下令	
	左記四中を以て独立歩兵第六十五大隊を編成	
	記	
	第一師団後備歩兵第一大隊の一中	
	第二師団後備歩兵第四大隊の一中	
	第六師団後備歩兵第一大隊の一中	
	第十一師団後備歩兵第一大隊の一中	
	編成要員として江西省九江県に於て二三四名補充せらる	
一四三、一	江西省九江県に於て編成完結	
四一五	江西省九江県湖口に移駐同地附近警備	
五二六	江西省瑞昌県に移駐同地附近警備	
四一〇	江西省瑞昌県に移駐同地附近警備	
一六三、二一	第三十三歩兵団の配属を解かれ江西省瑞昌県大屋田に集結同地附近警備	
一七四、〇	軍令陸甲第八号に依り独立歩兵第六十五大隊編成下令、編成業務に着手	
四二〇	編成完結	
尔後大屋田附近の警備に任ず		
一八七、二一	湖北省大冶県劉仁八に集結専ら教育訓練に任ず	

(407)

0917

年 月 日	概 要
昭 九、六、二七	衡陽城南方三料に到着、尔後衡陽城攻略に參加
三〇、四、一	零陵、果零陵に移駐、同地附近の警備
八、二六	停戦に因する詔書拜受
九、五	湖南省衡陽、果衡陽、吳家沖に集結
二、五、一九	上海着
六、一三	上海出帆
六、三〇	山口、果山崎港着、上陸、復員式挙行

(208)

0918

留守第四師団独立歩兵第百一五大隊略歴

年月日	概	要
昭一、三、三	編成業務着手	軍令陸甲第八号独立歩兵第百一五大隊編成下令
四、一	大阪に於て編成完結	
四、八	大阪に於て集結訓練	
自五、四 至五、三〇	内地港湾守品港出帆	
五、一五	駐留地湖北省陽新県陽新に到着該地附近の整備	
七、九	大隊本部湖北省陽新県大橋鎮に移駐	
自八、三 至九、三	湖南省零陵県零陵附近の整備	
自九、二 至九、六	停戦協定締結	
一〇、八 一〇、四	復員下令	
八、一八	復員の爲湖南省衡陽県衡陽出發	
三、四、四	上海到着	
五、二〇	上海出發	二十一年五月十三日佐世保五月二十一日

(409)

0919

第六十八師団独立歩兵第百十六大隊略歴

年月日	概	要
昭二七 三二七	軍令陸甲第百八号独立歩兵第百十六大隊編成下令	
四一	編成業務着手	
四八	歩兵第百十七聯隊補充隊(大阪)に於て編成完結	
五一四	中華民國派遣のため大阪出發	
五一五	宇岳出帆	
五二五	山海岡通過	
五二五	第六十八師団長の隷下に入る	
六三	中華民國湖北省武昌景武昌善 同地警備	
自八 至九 一〇 一〇 一〇	大隊主力を以て常德殲滅作戦に參加	
四一九	湖南省武昌景寧港橋着同地警備	
自一〇 至一〇 一一 一一	南部興漢打通策定作戦に參加	
一一五	一〇・一一五 中華民國湖南省末陽景(景)陽に東結 同地警備	
六二五	湖南省祁陽景(景)陽到着同地警備	
八一四	序戦に因する詔書發布	
二二四 五	内地帰還のため衡陽出發	
五二二	上海着	

外 三十八

(110)

0920

六八
六五

上海出發
仙崎上陸後員完結

(411)

0921

第六十八師団独立歩兵第百十七大隊略歴

第一代大隊長 陸軍大佐 青木 功 自昭一七、五、一〇
 第二代大隊長 陸軍少佐 永里 恒彦 自一九、六、一〇

年月日 概 要

昭三、三、二七 軍令陸甲第八百ノ依リ独立歩兵第百十七大隊編成下令

三、二七 編成業務着手

四、八 編成完結

五、一三 中華民國派遣のため扣歌山出發

六、一 中華民國江西省九江に上陸尔後同省德安縣に集結一部を以て德安附近の警備に任ず

八、七、二一 湖北省陽新縣に集結同時第百四十師団長の隸下を脱し本属に復帰す尔後陽新縣附近に在りて警備を担任せず専ら教育訓練に任ず

元、二、九 湖南省東山安縣に集結同地附近の警備に任ず

二、四、五 内地帰還のため衡陽出發

五、一、九 上海集結

六、七 上海出帆

六、一四 仙崎港上陸

六、一四 復員式挙行

内地帰還時主カと分離し復員した一部部隊の略歴は省歴す

(4/3)

0923

第六十八師団山砲隊略歴

陸軍大尉 上村 曉 美

編成完結の状況

第六十八師団司令部内に於て司令部附將校以下を以て山砲中隊を編成し第六十八師団司令部砲隊と称しありたるを昭和二〇、二一、二六中華民国湖南省衡陽に於て独立隊たりしめらる。

昭和二一、二四 四 帰還の爲衡陽出発

五一、一九 上海着

六一、一〇 鹿児島上陸

内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す。

(411)

0924

第六十八師團工兵隊略歴

陸軍少佐 北川三平

年月日	概要
昭七 四一〇	軍令陸甲第八号第六十八師團工兵隊編成下令
四一〇	編成業務着手
四三〇	中華民國江西省九江景九江に於て編成完結
五三〇	二小隊浙贛作戰参加
八三三	江南作戰参加
自八 六三三	常德作戰参加
自八 六三五	中華民國湖南省衡陽景衡陽に部隊移駐
至九 一〇八	軍令陸甲第十八号第六十八師團工兵隊編成改正下令
二〇 二一一	編成業務着手
三〇	中華民國湖南省衡陽景衡陽に於て編成改正完結
四一〇	停戦詔書発布
八一四	復員下令
八一八	停戦協定締結
九二二	内地帰還の爲中華民國湖南省衡陽景衡陽出発
二四 五	上海港出発
六一三	

(4/5)

0925

年月日	昭三六三 六三	要 概
内地帰還時主カと分離し復員した一部部隊の略歴は省略す 復員		

(4/5)

0926

第六十八師団通信隊略歴

年月日	概	要
昭和四一 四一〇	編成業務着手	軍令陸甲第八号独立混成第十四旅団通信隊復員並第六十八師団通信隊縮成下令
四二〇	中華民國江西省九江に於て編成完結	
自 至 一三二八 一三二八	大別山作戰参加	
一九四一九	中華民國湖北省武昌景紙坊移駐	
三二二	中華民國湖南省衡陽茶園嶺移駐	
三九一	中華民國湖南省衡陽耒雁塔移駐	
二四五	内地帰還の爲衡陽附近出発	
二六二	上海港出発	
六二〇	博多港上陸	内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

(4/7)

0927

第六十八師団輜重隊略歴

年月日	概要
昭一七、四、一〇	軍令陸甲第一八号第六十八師団輜重隊編成下令
四一〇	編成業務着手
四三〇	中華民國江西省九江景九江に於て編成完結
四三二	中華民國江西省九江景九江附近の警備並輸送
一八七、五	中華民國湖北省大冶景大冶移駐
二、四、五	内地帰還のため中華民國衡陽景衡陽出發
内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す	

本
四
十

(413)

0928

第六十八師団野戦病院略歴

年月日	概	要
昭七、三、二七	軍令陸甲第八百六十八師団野戦病院編成下令	
四、二	編成業務着手	
四、八	大阪編成完結	
五、一五	宇岳港出帆	
五、二七	山海關通過	
六、三	中華民國江西省九江縣九江到着	
七、一九	中華民國江西省武寧縣着療養所開設	
七、二〇	中華民國湖北省大冶縣大冶移駐野戦病院開設同日中華民國湖北省大冶縣石灰窰患者療養所開設	
一、九、四、一九	中華民國湖北省武昌縣三辺吳家移駐	
一〇、八、一四	停戦詔書発	
八、八	復員下令同日零陵患者療養所閉鎖	
二、四、五	内地帰還の爲中華民國湖南省衡陽県衡陽出發	
六、九	上海出帆	
六、一八	鹿兒島上陸復員式挙行除隊召集解除す	

(2/2)

0929

第六十八師団病馬稼略歴

年月日	概	要
昭三 四一〇	軍令陸甲第八号第六十八師団病馬廠編成下令	
四一四	編成業務着手	
四二〇	中華民國江西省九江に於て編成完結	
七二八	中華民國湖北省大冶に主刀移駐	
元 四一九	中華民國湖北省武昌紙坊に移駐	
二二七	中華民國湖南省衡陽皋白沙洲に移駐	
二四五	内地帰還の爲衡陽出發	
五一九	上海に集結	
五三九	上海港出帆	
六四	鹿児島港上陸	
六四	鹿児島にて復員	

(420)

0930

独立混成第八十一旅団司令部略歴

陸軍少將 導 田 盛 寿

年月日	概	要
昭三〇 三〇	昭三〇年軍令陸甲第一八号に拠り中華民国湖南省湘潭県に於て独立混成第八十一旅団臨時編成完結	
三〇	旅団長以下將校二名、下士官二八名、兵八四名、軍属一名	
四一	第一〇軍野戦貨物廠へ經理部見習士官一名転属す	
四〇	第一三師団へ經理部見習士官二名転属す	
五一	第二〇軍野戦貨物廠へ兵一名転属す	
五〇	第二〇軍野戦貨物廠へ技術將校一名転属す	
六一	独立山砲第五師隊より軍医將校一名転入す	
六一	自昭三〇六二湘潭附近の警備撤死兵一名	
六二	独立歩兵第五十二大隊より兵二名転入す	
六三	本土兵備要員として富中主計中尉以下將校二名、下士官五名、東部軍管区司令部に転属のため湖南省湘潭県出発	
六三	独立歩兵第五十二大隊より兵一名転入す	
七一	独立歩兵第五十五大隊より兵一名転入す	

昭和三十一年 (421)

0931

年月日	概	要
昭二〇八二四	停戦詔書発布	
八二五	復興下令	
九二二	停戦協定締結、停戦協定締結後戦死將校一名、戦病死兵一名	
九二九	第二〇軍野戦兵器廠より技術將校一名転入す	
九二八	第二集中營、中華民國湖南省湘潭県正心郷伍家灣に移駐	
三二八	中国派遺軍總司令部へ准士官一名、下士官一名転属す	
三二二	第百三十三兵站病院（湘潭患傷療養所）より大串軍医大尉以下將校四名、下士官五名兵一二名転属す	
五二〇	一部部隊として復興帰郷のため下士官三名、兵七名上海港出發す	
五二九	一部部隊として復興帰郷のため將校六名、下士官九名、兵二八名上海港出發す	
四二二	復興帰郷のため湘潭県正心郷伍家灣に發民船に依り湘江下航	
四二五	長沙出發民船に依り湘江下航	
五三三	岳州着	
五三三	列車輸送に依り岳州出發	
五四四	武昌着	
五四四	楊子着	
六四四	列車輸送に依り漢口出發	
六六六	鄭州着	

六〇	鄭州出發、開封、徐州を経て同月十二日浦口着
六一	南京着、同月同日南京出發
六二	上海着
七二	上海出帆
八一	浦賀上陸
八三	復員式挙行

(423)

0933

独立混成第百八十一旅団司令部略歴

陸軍少將 專 田 盛 吾

年月日	概	要
昭二〇二〇	編成完結の状況 湖南省湘潭県湘潭に於て昭和二〇年軍令陸甲第一八号に依り第一野戦補充隊復 帰完結	
二〇	独立混成第百八十一旅団臨時編成完結 行動の概要	
二、六、二五	内地帰還のため独立混成第百八十一旅団司令部の一部として陸軍大尉石岡久一郎 以下（將校十一名、下士官二十七名、兵八十七名、軍属一名）計一二六名特別 輸送艦船八十五号に乘船上海港出発	
六、二七	佐世保港に到着	
六、二九	船内に於て検便実施	
七、一	鹿児島廻航のため佐世保港出発	
七、二	鹿児島港に到着	
七、三	陸軍兵長石井正也慢性マラリヤのため鹿児島国立病院に入院	
七、四	鹿児島港に上陸	

兵力
内地帰還者 一、二六名
石岡大尉以下三名七月七日入員関係善類の点検を受け七月八日恩給関係及経理
関係の点検を受け各係に提出の上帰郷す

(426)

0935

独立混成第八十一旅団独立歩兵第四百八十四大隊略歴

年月日	概	要
昭一九三二 三、二一	編成業務着手	
三、一五	内地歩兵第十五聯隊に於て編成完結	
三、一七	華中派遣のため屯営出発	
三、二二	門司港出帆	
三、二五	青島港上陸	
三、三〇	南京着	
七、二八	湘潭易俗河着、同地附近の警備	
九、一〇	第六方面軍司令官の隷下に入る	
一〇、三二	第二〇軍司令官の隷下に入る	
二〇、三一	湘西作戦開始	
三、一	軍令陸甲第 号第一野戦補充隊歩兵第一大隊復帰	
三、一〇	編成業務着手	
三、一〇	華中湘潭易俗河に於て編成完結	
三、一〇	華中湘潭易俗河附近駐留整備	
八、二五	復員下令	

外 四十二

(426)

0936

七三	七二	六一七	四三二
内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す	十八時より針尾海兵団に於て復員式を挙行す	佐世保上陸	内地帰還のため湘潭出発。長沙、岳州、漢口、南京を経て六月十三日上海到着

<<27

0937

独立混成第八十一旅団独立歩兵第四八五大隊略歴

今廿大隊

年月日	概	要
昭三〇、三、一〇	昭和二〇年軍令陸甲第十八号に拠り中華民國湖南省湘鄉県湘鄉に於て独立混成	
第六三〇〇	第八十一旅団独立歩兵第四八五大隊臨時編成完結	
第六一八	湘西作戰参加	
八二五	中路舗着全地附近の警備	
二四〇〇	復員下令	
六二〇	復員帰還のため湘潭出發	
五一二	上海着	
五一八	上海よりの帰還は左の区分に依り復員す	
五三〇	楊子分遣隊武田中尉以下二三名上海出發	
六二七	佐世保上陸同日召集解除	
六二六	弱者先遣隊荏原軍曹以下一三九名上海出發	
七五	博多上陸、同日召集解除	
七五	第一梯団田上大尉以下四二名上海出發	
七五	浦賀上陸	
七五	召集解除	
六三〇	第二梯団坂本大尉以下四五四名上海出發	

四十三

(428)

0938

七二	七九	七一	八三	八一
召集解除	浦賀上陸	弟三梯団横井大尉以下一七一名上陸出發	召集解除	浦賀上陸

(429)

0939

独立混成第八十一旅団独立歩兵第八大隊略歴

年月日	概要
昭三、三、一〇	軍令陸甲第十八号により第一野戦補充隊復帰完結
至自 三、一〇 六、一〇	軍令陸甲第十八号独立混成歩兵第八十一旅団編成下令
九、二	中華民国湖南省湘潭県湘潭に於て独立歩兵第八大隊編成完結
二、六、二六	湘西作戦参加
七、五	停戦協定締結
七、七	内地帰還のため上海出発
	浦賀港上陸
	復員完結

外 四十三

(430)

0940

独立混成系八十一旅団独立歩兵第四百八十七大隊略歴

年月日	概要
昭二〇/三/一〇	昭和二〇年軍令陸甲第十八号に依り独立歩兵第四百八十七大隊編成下令
✓三/二五	編成業務着手
三/三〇	編成完結
	当時大隊の駐屯地及任務
	湖南省安仁県荷樹下附近警備
七/一八	湖南省湘潭県湘潭に移駐
八/二五	復員下令
九/二	停戦協定締結
二/四/二三	帰還のため長沙、東黒石頭を後に行軍出発
六/二四	上海到着
七/八	陸軍大尉 坂本五郎以下四六一名浦賀港上陸
七/九	陸軍大尉 林田義大以下部隊主力浦賀港上陸

(43)

0941

独立歩兵第百八十八大隊略

陸軍大尉 島田幸夫

年月日	概要
昭三〇三・一〇	昭和二〇年軍令陸甲第十八号に概り独立歩兵第百八十八大隊編成下令せらる 当時第一野戦補充隊歩兵第五大隊たりし部隊を以て同日編成着手同日湖南省湘 潭景銀田市に於て編成完結
八・三	復員下令
二・五・一	内地帰還のため長沙出発
六・四	上海に集結
六・三	上海出帆
七・八	浦賀上陸
七・一〇	浦賀に於て復員式を行ふ

内 四十四

((22))

0942

独立混成第百八十一旅団独立混成第百八十一旅団砲兵隊略歴

年月日	概	要
昭和 三、二〇	憲第二十勅員第一号下令	
三、二一	宇都宮野砲兵第五十一聯隊補充隊に於て編成着手	
三、二六	宇都宮に於て勅員完結	
三、二七	中国派遣のため宇都宮出発	
三、二〇	門司港出発	
五、二〇	中華民國湖北省孝感県孝感に移駐	
三、三一	軍令甲第十八号独立混成第百八十一旅団砲兵隊編成下令	
三、三一	編成業務着手	
三、三〇	湖南省湘潭県湘潭に於て独立混成第百八十一旅団砲兵隊編成完結	
三、二〇	独立混成第百八十一旅団砲兵隊に在りて湘潭附近の整備	
八、二五	復員下令	
九、二	停戦協定締結	
二、四、二〇	内地帰還のため湖南省湘潭県湘潭出発	
六、二四	上海着	
六、二五	上海港出発	
七、三	佐世保上陸	

(23)

0943

独立混成第百一十旅団工兵隊

年月日	概要	要
昭三〇、三、一	軍令陸甲第十八号により独立混成第百一十旅団工兵隊編成下令	
三一	編成業務着手	
三、一〇	中華民國湖南省湘潭県湘潭に於て編成完結	
自 三、一〇	湖南省湘潭県湘潭附近に在りて同地附近の整備	
至 八、二五	(交通、築城作業及輸送業務)	
八、二五	復員下令	
二、四、二二	内地帰還のため長沙出発	
六一三	部隊主力上海市に集結	
六、二五	上海港出発(主力)	
七、二六	佐世保港上陸(主力)同日復員完了	

外 四十四

(434)

0944